

船舶事故調査報告書

平成30年5月23日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成29年12月22日 10時28分ごろ
発生場所	愛媛県松山市小安居島南西方沖 安居島灯台から真方位152° 1.5海里付近 (概位 北緯34° 02.9′ 東経132° 43.5′)
事故の概要	漁船達丸は、南東進中、また、プレジャーボートSea Chicken 5号は、漂流中、両船が衝突した。
事故調査の経過	平成30年1月18日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 漁船 達丸、1.1トン EH3-24881（漁船登録番号）、個人所有 B プレジャーボート Sea Chicken 5号、5トン未満（長さ5.32m） 281-34608 愛媛、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、一級小型・特殊・特定 B 船長B、二級小型
負傷者	なし
損傷	A 船首部外板に擦過傷 B 船首部外板に亀裂及び擦過傷
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北北東、風速 約0.7m/s、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の末期
事故の経過	A船は、船長Aが1人で乗り組み、漁場を移動する目的で、手動操舵により約3ノットの対地速力で小安居島南西方沖を南東進中、船長Aが、操舵室で立って操船に当たり、顔を下に向けた姿勢で手釣り用の漁具の準備作業を行っていたところ、その船首部とB船の船首部とが衝突した。 船長Aは、救命胴衣を着用していた。 B船は、船長Bが1人で乗り組み、友人1人を乗せ、小安居島南西方沖において、船首を北西に向け、船外機を中立運転として漂流し、船長Bが後部甲板で右舷方を、同乗者Bが中央部甲板で左舷方をそれぞれ向いて腰を掛け、釣りを行っていたところ、船長Bが至近に接近したA船に気付いたものの何もできず、A船と衝突した。 船長B及び同乗者Bは、救命胴衣を着用していた。
分析	A船は、小安居島南西方沖を南東進中、船長Aが、顔を下に向けた姿勢で漁具の準備作業を行い、前路の見張りを適切に行っていなかったことから、前路で漂流中のB船に気付かず、B船と衝突したものと

	<p>考えられる。</p> <p>B 船は、小安居島南西方沖で漂泊中、船長Bが、釣りをしている周囲の見張りを適切に行っていなかったことから、接近する A 船に気付くのが遅れ、A 船と衝突したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、小安居島南西方沖において、A 船が南東進中、B 船が漂泊中、船長 A 及び船長 B が共に見張りを適切に行っていなかったため、両船が衝突したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・航行中は、他の作業などを行うことなく、常時適切な見張りを行うこと。 ・釣りをしながら漂泊する場合においても、間隔を空けずに周囲の見張りを行い、接近する他船の早期発見に努めること。